○ 中間評価の結果について

・「優れた取組状況であり，研究開発のねらいの達成が見込まれ，更なる発展が期待される」（３校）
〈学校名〉
大阪府立大手前高等学校
兵庫県立神戸高等学校
熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

・「これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成が可能と判断される」（７校）
〈学校名〉
秋田県立大館鳳鳴高等学校
茨城県立緑岡高等学校
千葉県立佐倉高等学校
学校法人玉川学園玉川学園高等部・中等部
愛知県立一宮高等学校
愛知県立時習館高等学校
沖縄県立球陽高等学校

・「これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの，併せて取組改善の努力も求められる」（１２校）
〈学校名〉
北海道滝川高等学校
群馬県立前橋女子高等学校
神奈川県立厚木高等学校
新潟県立高田高等学校
新潟県立長岡高等学校
福井県立高志高等学校
三重県立津高等学校
大阪府立高津高等学校
学校法人大多和学園開星中学校・高等学校
徳島県立城南高等学校
愛媛県立宇和島東高等学校
福岡県立東筑高等学校

・「研究開発のねらいを達成するには，助言等を考慮し，一層努力することが必要と判断される」（２７校）
〈学校名〉
北海道岩見沢農業高等学校
秋田県立秋田中央高等学校
秋田県立秋田北鷹高等学校
栃木県立宇都宮女子高等学校
学校法人佐野日本大学学園佐野日本大学高等学校
学校法人白鴎大学　白鴎大学足利高等学校
新潟県立柏崎高等学校
新潟県立新発田高等学校
新潟県立新潟南高等学校
福井県立武生高等学校
学校法人山梨英和学院山梨英和中学校・高等学校
静岡県立浜松工業高等学校
静岡市立高等学校
愛知県立豊田西高等学校
愛知県立半田高等学校
京都府立桂高等学校
大阪市立都島工業高等学校
兵庫県立龍野高等学校
島根県立出雲高等学校
徳島県立徳島科学技術高等学校
長崎県立長崎南高等学校

・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので，助言等に留意し，当初計画の変更等の対応が必要と判断される」（０校）
〈学校名〉

・「現在までの進捗状況等に鑑み，今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり，スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し，又は沿わないと思われるので，経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」（０校）

○ 中間評価講評

1	北海道岩見沢農業高等学校	○　SS 課題研究など，SSH 事業として取り組む生徒を増やしていくことが重要である。そのためにも，教員の意識の共有や連携体制を更に高めていくことが必要である。 ○　課題設定に際して生徒の主体性を生かしていくことが望まれる。また，農業分野の課題だけに留まらないことも期待する。 ○　クロスカリキュラムの具体的な成果と課題が見えにくい。理科・数学と農業とを融合させた学習プログラムを開発するためには，SS 科目の学習内容を相互に関連付けることが考えられ，更に教科間の連携を深め，指導内容を整理するとともに，学習指導と評価の改善を図ることが必要である。
2	北海道滝川高等学校	○　理数科の取組において，例えば，「フロンティアサイエンスⅠ」などでは，テキストも完成に近づき，生徒の意識も向上するなど，成果を上げている。 ○　SSH 事業の意義を，全教員が認識することが望まれる。また，全校体制で取り組むためには，SSH 事業を全教員で実践し，その効果を実感することが重要である。 ○　生徒が自分で課題を考えて課題研究を実施し，その中で課題発見力，企画力，創造力，課題解決力，コミュニケーション力，発表力などがどう育っているのかをしっかり評価し，改善していきながら，普通科での課題研究の開発につなげていくことが望まれる。
3	秋田県立秋田中央高等学校	○　「高大接続プログラムの研究開発」をテーマの 1 つに掲げているが，「研究室インターンシップ」や「高大教員による協働授業」について，今後一層の充実を期待したい。 ○　科学的基礎力，持続的探究力，問題解決能力を育む指導法の研究とは，具体的に何を指すのか，明確にすることが重要である。また，教員の教材開発や授業改善の取組を充実させていくことが望まれる。 ○　先進校訪問や東北地区 SSH 担当者等研修会への参加だけでなく，更に充実した教員研修が重要である。

4	秋田県立秋田北鷹高等学校	○　科やコースの特色を生かした，メリハリをつけた活動を行う工夫も重要である。例えば，普通科特進理系に対しては，高度な内容を含む指導や活動を推進し，農業科には普通科生徒と連携した特色ある研究活動を推進するなどが考えられる。 ○　データに基づいて現状を明確に把握することに課題がある。客観的に現状を把握した上で，改善をしていくことが重要である。 ○　全体の取組について，より構造化するとともに，仮説を検証していく必要がある。
5	秋田県立大館鳳鳴高等学校	○　SSH 事業の対象生徒を普通科の文系に拡大して，「文理融合ゼミ」を実施している点に特色がある。英語によるディベートを行い論理的に表現する活動を生徒全員が経験していることは，評価できる。 ○　今後，３年生に設置予定の「総合科学Ⅲ」では，２年生までに研究してきた内容と有機的に関連付けた内容を検討することを期待する。 ○　「科学的リテラシー」「国際性」とは何かを生徒像から明確にし，教員側からの評価を充実させることが重要である。
6	茨城県立緑岡高等学校	○　「SS 課題研究」を２年生，３年生で開講しており，生徒の力を向上させることに大きく成功している。文系生徒に対する「Science」も生徒からの評価も高く，優れた取組である。 ○　「教員の意識の変容」では，教員自身の教育に対する心構えや，意欲，自己効力感などについても調査する等，教員の評価方法の検証の充実が望まれる。 ○　全教職員に研究成果報告書等を配付し，職員会議等でも報告は行われているが，運営指導委員会を開催した後に研修会を行い，現状報告と改善点等について議論・周知する等，職員研修をより充実させることが期待される。
7	栃木県立宇都宮女子高等学校	○　生徒の意識調査結果の向上や，コンテスト・発表会の参加者数・入賞者数の増加では，良好な成果が見られるが，目標に掲げた能力（コミュニケーション能力，論理的な思考力・表現力）の下位目標や評価規準を明確にするなどの工夫が望まれる。 ○　課題研究の充実を図るため，探究活動の過程の可視化や多面的な評価方法の導入，課題研究を指導する教員の資質向上に関する取組等が重要である。 ○　５つの研究推進グループに分かれている SSH 部がより活性化することが望まれる。
8	学校法人佐野日本大学学園佐野日本大学高等学校	○　附属高校である利点を生かして，高大の教員間の更なる連携による体制づくりが望まれる。 ○　課題研究については，調べ学習になってしまっている部分も見受けられるので，更に生徒自身による研究の質を高めることが必要である。 ○　課題探究活動を全校的に展開しているが，生徒にとって学習効果の高いものとなっているかどうかについて，適切に評価をしていくことが重要である。

9	学校法人白鴎大学　白鴎大学足利高等学校	○　SSH 事業において，生徒をどのように変容させていきたいかをより明確にしていくことが重要である。様々な事業が実施されているが，生徒は与えられたものを受身的にこなすことがないようにする必要がある。 ○　課題研究について，生徒たちが自ら研究テーマを提案して主体的に進められるような仕組みの導入が望まれる。 ○　理科・数学はもちろん，それ以外の教科・科目において，より主体的・協働的に学ぶ授業への改善が重要である。
10	群馬県立前橋女子高等学校	○　科学的探究Ⅰ及びⅡを中心として，充実した理数系人材育成のプログラムが進められている。また，全体として偏りのない課題設定がなされ，課題研究における生徒の主体性を大切にしつつ，それを損なわない形でのレベルアップも意図されており評価できる。 ○　課題研究を更に発展させるため，３年次において，課題研究の時間と場所の保証を検討していくことも期待される。 ○　「MJ ラボ」や「SS-Lecture」等の優れた取組が課外活動として実施されているが，これらの成果を日常の授業にも生かしていくことも望まれる。
11	千葉県立佐倉高等学校	○　２年次「SS 課題研究Ⅰ」，３年次「SS 課題研究Ⅱ」を開設し，教員１人当たり生徒２～３名を担当する体制となっており評価できる。 ○　「佐倉サイエンス」などに対する生徒の評価で，分野・コンテンツによって大きな差があり，生徒が評価していないものもある。教員の指導力向上やコンテンツ設定も含め改善していくことが必要である。 ○　大学等との連携体制の実現や「科学の甲子園Ｊｒ.」に参加する中学生への講習会など，特色ある活動を行っており，さらなる取組の充実が期待される。
12	学校法人玉川学園　玉川学園高等部・中学部	○　中学校から，探究的活動の基礎基本を形成し，中高４年間で課題研究に取り組んでおり，課題研究の充実が学力向上につながるという好ましい成果が表れている。 ○　教員研修の充実が全教員の意識改革につながっている。学会発表や論文化など，教員自身の研究活動の可視化も期待される。 ○　多様な科目設定は好ましいことであるが，それらの系統性が俯瞰できるような工夫が望まれる。
13	神奈川県立厚木高等学校	○　SSH 事業の趣旨や成果を，全ての科目の授業にも生かしていくことが期待される。 ○　課題研究活動から主体的に学習意欲を持ち，自ら考えて課題を発見し，解決していく力を持つ生徒を育てることの意義・効果を全教員に浸透させるために様々な方策を講じていく事が重要である。 ○　評価については，生徒や教員の意識調査が中心となっているので，目指すべき生徒像を明確にして，どのような能力が身についたか客観的に評価する方法を検討することが望まれる。
14	新潟県立柏崎高等学校	○　理数系コースの生徒だけでなく，２期目で対象となる普通科の生

		徒の意識が高揚していく取組が期待される。 ○　英語について GTEC の伸びは素晴らしいが，取組や指導の改善との関係を分析する等して，他の学習や授業改善に役立ていくことが期待される。 ○　教員の指導力向上の取組として，授業改善に向けた教員相互の取組となるような改善・充実が望まれる。
15	新潟県立新発田高等学校	○　ESD フォーラム，ESD 探究，ESD 講座など，ESD が SSH 事業の中で推進されているが，SSH 事業の狙いをより明確にしていくことが必要である。 ○　課題研究において生徒が主体的に取り組めるように指導体制の改善が必要である。 ○　事業の評価は適切に実施し分析されているが，検証から明らかになった問題点の対処について明確にするとともに，全校で解決にあたる体制を整備することが重要である。
16	新潟県立高田高等学校	○　SSH 事業における各取組の進行管理が適切に出来ていることや，全教員で取り組んでいることについては，評価できる。 ○　教員を対象とした意識調査では，教員間で意識の違いがあると分析されており，SSH 事業が，より全校一体となって推進できるよう改善していくことが重要である。 ○　学年縦断型の取組については，交流の機会を増やしていくことも重要である。また，評価については，研修をしながら進めているところであり，更なる発展が期待される。
17	新潟県立長岡高等学校	○　新潟県 SSH 生徒研究発表会の開催や，海外研修の実施など，校長のリーダーシップのもとに SSH 事業が推進されており，成果が期待される。 ○　普通科における，課題研究の更なる充実が望まれる。 ○　新潟県 SSH 生徒研究発表会を，長岡高校が主体で行うことの意義や活力は評価できるが，これまで以上に教育委員会と連携する等，更なる取組の充実が期待される。
18	新潟県立新潟南高等学校	○　３期目の学校としてこれまでの蓄積を踏まえた発展的な取組を行っていくことが期待される。また，卒業生の情報を集約したり，SSH 発表会に参加させたりすることを通して SSH 事業が人材育成にどんな成果を上げているか等について評価することも期待される。 ○　３分野の講義と実習が組まれた高大連携講座は，１年生で実施されている。普通科の参加が少なかったとのことであるが，研究課題である「未来を担う科学技術系グローバル人材育成」につなげるには，生徒の意識改革が重要である。 ○　環境問題プレゼンテーション・フェスティバルは，１年全員で行うとあるが，教師の意識改革という意味からも，各教科学習と当該取組の関係性を持たせるなど，共通理解を図る意識を高めていく必要がある。
19	福井県立高志高等学校	○　SSH 対象生徒を普通科に拡大するとともに，SGH，さらには，中高一貫に対する取組もスタートしている。今後は，学校全体として，

		各プログラムの内容の深まりを期待したい。 ○　全教員が一体感をもって，生徒をどのように育成していくのかについての認識をより共有していくことが望まれる。 ○　意識調査については，生徒が自分を振り返るという点を生かす意味で継続することが望ましいが，生徒の自己評価によらない評価方法の検討も考えられる。
20	福井県立武生高等学校	○　普通科の「課題研究Ⅰ」では，担任・副担任が担当となっているが，教科の専門的な知見が入るように工夫することが望まれる。 ○　１つ１つ取組を，より有機的につなげていくためにも，３年間を通しての道筋をしっかりと定めていくことが必要である。 ○　運営指導委員会は，SSH 事業の運営に関し，専門的見地から指導，助言に当たるものであり，課題研究の指導，助言のみにならないように考慮することが望まれる。
21	学校法人山梨英和学院　山梨英和中学校・高等学校	○　環境教育や ESD を取り入れることに特色が見られるが，その特色を更に明確にするためには，各取組に対する環境教育や ESD の視点から評価することも重要である。 ○　中学校だけでなく，高校での課題研究等が，生徒主体に展開できるように，教員の指導力向上を組織的に図ることが必要である。 ○　学校設定科目と課題研究を有機的につなげ，生徒の学びを更に深めていくことが必要である。
22	静岡県立浜松工業高等学校	○　SSH 事業の主体となっている課題研究をより生徒が意欲をもって取り組めるように学校が掲げている「RAC 学習スパイラル」を活用する等，課題の設定と取組に生徒の主体性を生かしていけるような工夫が望まれる。 ○　理数工学科の取組を充実し，その影響を他の学科にも広げ，学校全体の取組として更に積極的に進めていくことが重要である。 ○　評価について，生徒と教員の意識調査だけでなくより客観的な評価を行うことが大切である。
23	静岡市立高等学校	○　SSH 事業の推進や個々の取組の成果を客観的に評価できる工夫や取組の進捗を客観的に評価できる工夫が望まれる。 ○　「 科学技術の面から社会に貢献しようとする高い志をもつ」という仮説についての評価は十分でないため，改善が必要である。 ○　SSH 指定校となる以前から，各科目で主体的な学びの実践があったことは評価できるが，取組の充実や対象を拡大する等，更なる推進が期待される。
24	愛知県立一宮高等学校	○　SSH 設定科目が教科横断的にしっかりと連携しており，効果的なカリキュラムとなっており，評価できる。また，自然科学系の部活動についても，非常に活発である。 ○　国際性を高める取組について学校として力を入れている。今後は，生徒全員の国際性を育成できるよう，取組を更に充実していくことが望まれる。 ○　１，２年生での取組が３年生の SSH 課題研究につながるよう，明確な位置づけをしていくことが重要である。また，その位置づけの

		中で課題設定能力をしっかりとつけさせていくことが期待される。
25	愛知県立時習館高等学校	○　課題研究では，自ら課題を見つけて，３年生まで研究を続け，発表までつなげていることは評価できる。 ○　理科課題研究に対するテキスト，指導マニュアル等を作成している。また，他教科にも探究的な取組が広がっており，評価できる。 ○　仮説の検証について，生徒や教員アンケートによる主観的な評価が中心となっているが，より客観的な評価基準を検討することが望まれる。
26	愛知県立豊田西高等学校	○　事業計画の１つ１つをしっかりと評価し改善するとともに，SSH 事業全体を整理して，より生徒にも分かりやすい全体像を作ることが重要である。 ○　探究活動や課題研究の指導力を高めるための教員研修について，より多くの教員が参加する等，成果を全校的に広げていくことが期待される。 ○　仮説の検証について，生徒・教員アンケートによる主観的な意識調査が中心となっているが，より客観的な評価基準を検討することが望まれる。
27	愛知県立半田高等学校	○　海外校との連携によって，具体的にどのように効果があったのか，明確にしていくことが望まれる。 ○　課題研究については，生徒のみでの学習・研究活動を行うだけでなく，理数の教員全員のほか，外部人材等の活用による指導等も重要である。 ○　仮説に対する評価については，生徒アンケートによる主体的なものが中心となっているが，より客観的なデータに基づく評価も重要である。
28	三重県立津高等学校	○　文系理系に関わらず１年生では全員が探究活動を行い，探究の意味や方法を学んでいることや，探究活動をサポートする担当教員に向けた教材（ポスター作成・発表に関する方法論など）を開発しており，評価できる。 ○　大学での研修は充実しているが，それが生徒の主体的な学びを促すことに十分役立っていないように見受けられる。課題研究のテーマを学校外だけで探させるのではなく，生徒の経験や興味に基づいてテーマを探すような仕組みづくりが望まれる。 ○　教員の意識がどのように変容したのかも検証することが必要である。
29	京都府立桂高等学校	○　アンケートによる生徒の意識調査によると，問題解決能力を必要とする理科・数学への学習意欲，国際化の推進へつながる英語学習意欲があまり高まっておらず，原因究明と改善が必要である。 ○　専門学科での成果が普通科を巻き込んでいくような活動を展開していくことが重要であり，そのためにも学校全体として体制を整え，組織的に取り組むように，改善することが望まれる。 ○　学校全体で取り組んでいくためにも，成果の情報共有や情報発信が大切である。また，他の SSH 指定校や課題研究などを積極的に行

		っている学校の生徒及び教師との交流の場を設けることなども考えられる。
30	大阪府立大手前高等学校	○　SSH 設定科目「まこと」(英語プレゼンテーション授業),「のぞみ」（統計学・数学プレゼンテーション授業）が充実しており，それが「課題研究」にうまくつながっており評価できる。 ○　校内体制がしっかりと構築されており，全教員で取り組む体制となっている。また，教員の研修についてもしっかりと進めており，評価できる。 ○　研究の成果と課題の分析に当たっては，更に多面的，客観的な評価方法を取り入れることが望まれる。
31	大阪府立高津高等学校	○　SSH 事業や課題研究の指導にかかわることが，教員の資質向上につながることが明確に教員の共通認識になっており評価できる。 ○　生徒の変容についての評価方法として，意識調査や教員観察などを行っているが，更に多面的，客観的，定量的な評価方法の研究・導入が望まれる。 ○　科学技術人材育成重点枠での取組と SSH 本体との相互関連性を高め，課題研究の充実や部活動の活性化につなげていくことが望まれる。
32	大阪市立都島工業高等学校	○　SSH 事業によって，どのように生徒を変容させようとしているかの整理し，目的や目標を明確にしていくことが望まれる。 ○　課題研究については工業と理科・数学の両方からの観点で取り組むシステムを構築することが望まれる。その際，理数工学 A などの成果を活用すると共に理科教員と工業教員がチームワークをもって指導する体制を作ることが望まれる。 ○　各仮説に対して，どのような評価基準で検証するのか，より明確にしていくことが必要である。
33	兵庫県立神戸高等学校	○　評価については，尺度を詳細に規定しており，大変優れた取組となっている。また，課題研究では，生徒の挑戦・解決力の育成につながっており，評価できる。 ○　理数以外の科目における連携授業の実施や，卒業生のアンケートによる追跡調査・分析など特色ある活動を行っており，評価できる。 ○　Web ページを活用した成果の普及についても良い取組である。今後は，成果を普及するとともに，成果を公表することで取組を客観的に見返し，さらに取組の質を向上させていくことを期待する。
34	兵庫県立龍野高等学校	○　SSH コースの生徒の学習意欲が高まっている結果が出ており，今後は，SSH 事業の成果を全校に広げる取組が期待される。 ○　自己評価として，今後の課題・改善点を的確に把握しており，これらを実現するために，一層の取組の充実・改善が期待される。 ○　教員の指導力向上のため，授業研究会を企画運営して課題研究での指導につながるような授業の在り方の工夫を議論する等，より積極的な取組が望まれる。
35	島根県立出雲高等学校	○　課題研究は生徒５人一組のグループ学習となっており，テーマも

		相談して決めているが，希望に応じて個人研究も認めるなど，柔軟な対応をしていくことが重要である。 ○　SGH 事業との切り分けと相乗効果が図れるような取組の工夫とともに，教員も生徒にも過度な負担のない取組と検証を図ることが望まれる。 ○　課題研究などの質の向上や内容を深化するために，年２回程度の研修で実現が可能か，組織的な取組の必要はないか等，検証が必要である。
36	学校法人大多和学園　開星中学校・高等学校	○　課題研究を中学段階から段階を踏んで指導する体制や SSH 事業の取組に統合性がある点は評価できる。今後，理数人材育成のモデル作成やプロセスの確立が期待される。 ○　具体的なデータを基に教員の意識の変容を評価していくことが重要である。 ○　３つの研究仮説それぞれについて，成果と課題を整理していくことが必要である。特に，学校が育てるべき生徒像として設定している「つつも」（創造力，共生力，耐久力）についてどのようにその成果を図るのかを検証していくことが大切である。
37	徳島県立城南高等学校	○　科学クラブの部員数も多く，課題研究も系統的・段階的に指導している点は評価できる。 ○　SSH 指定３期目の学校として，成果をしっかりと評価するシステムを構築していくことが望まれる。 ○　外部連携を積極的に行ったり，外部講師による校内研修を行ったりしているが，教員自身が，まず自分たちで生徒を育てていくような意識を更に醸成していくことが重要である。
38	徳島県立徳島科学技術高等学校	○　SSH 事業の取組は，水産系学科に工業系学科が加わる形となっているが，学校全体に行き渡るような取組の充実が期待される。 ○　学校全体で相互に授業を確認するなど，学校として研究成果の共有・継承が図られるような取組を更に進めていく必要がある。 ○　課題研究については，技術的な研究になっているように見受けられる部分もあり，より生徒自ら設定するテーマになるような工夫が必要である。
39	愛媛県立宇和島東高等学校	○　地域の特性に依存した課題研究に特色を置くカリキュラム開発を通して，人材育成をしていこうとする点は評価できる。 ○　学校運営の中に SSH 事業を更に大きく位置づけ，全教員で取り組んでいくことが望まれる。 ○　仮説に対する検証について，生徒・教師アンケートによる主観的な評価に加え，より客観的な評価を行うことが重要である。
40	福岡県立東筑高等学校	○　教員研修に力を入れているが，より一層の充実を図り，普段の授業改善に結びつけることが重要である。 ○　課題研究については，一定の単位数を担保するなど更なる充実が望まれる。また，３年生においても課題研究をできるような体制づくりが期待される。 ○　「Ｔｉ物理」「Ｔｉ生物」「Ｔｉ化学」（「Ｔｉ」は学校設定教科）

		と課題研究が結びつくことで，生徒の深い学びにつなげていくことが望まれる。
41	長崎県立長崎南高等学校	○　取組の多くは，生徒が始めから主体的に参加するものが少ないように見受けられる。課題研究についても，テーマ設定をより生徒主体で行うことが重要であり，生徒の主体性をどう引き出し，どう支援するか検討することが望まれる。 ○　選択 SSH 班（希望者を対象に課外を中心に活動）の生徒に，取組や予算が一部集中しているが，他の生徒への成果の普及等，取組を広げていくことが期待される。 ○　運営指導委員の指導に対して，改善を行った内容や，改善を実施した成果をデータとして取りまとめる等，具体的にどのように改善したのかを整理し，学校全体で共有していくことが重要である。
42	熊本県立宇土中学校・宇土高等学校	○　人材育成の目的を明確にし，教員がそれを十分に意識して事業展開をしており，優れた取組となっている。 ○　課題研究において，１年生全員対象の探究講座Ⅳ，プレ課題研究，２年SSコース課題研究，２年探究講座Ⅴが有機的につながっており，評価できる。 ○　今後，高校から入学する生徒への波及を大きくして，学校全体として SSH 事業を充実していくことが期待される。
43	沖縄県立球陽高等学校	○　研究開発課題と実施計画が，目的を明確にしてわかりやすく設定されており，評価できる。特に課題研究のテーマが生徒主体のものとなっており，課題研究の実施においても生徒の工夫が多く見られる。 ○　運営指導委員会の英語プレゼンに関する指摘を踏まえた改善や，多様な外部人材を活用し，特色のある授業（SS 防災気象）を展開している点が，評価できる。 ○　年々，外部講師の指導時間が増加しているが，単発の取組にならないよう更に工夫していくことが望まれる。